（８） ブロッコリー　※茎ブロッコリー（スティックセニョールなど）は指針Ⅱを参照

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 苗立枯病 *Rhizoctonia solani*	1.床土は排水のよい無病のもの使う。 2.換気を良好にし、床内を乾かす。 3.本病を対象にリゾレックスで防除を実施しているところでは、リゾクトニア属菌による立枯症の発生が少ない。	育苗期	14	リゾレックス水和剤
		生育初期	14	リゾレックス水和剤
2 萎黄病 *Fusarium oxysporum* f.sp.*conglutinans*	1.抵抗性品種を導入する。 2.連作を避ける。 3.発病株は早期に処分する。			
3 黒腐病 *Xanthomonas campestris* pv.*campestris*	1.連作すると多発するので、アブラナ科以外の作物を最低２年輪作する。 2.発病株を除去し、収穫後の残茎葉は集めて土中に埋没する。 3.排水を良好にする。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.苗床では初発から散布する。 2.強風や虫害による傷口から侵入して発病することが多いので、害虫を防除する。 3.銅水和剤（コサイド3000）は出蕾後に散布すると花蕾に薬害が発生するおそれがある。	定植時	P2 P2	オリゼメート粒剤 オリゼメート顆粒水和剤
		初発生期 ～発蕾期	M1 M1 M1 U18 31･24 24･M1 24･M1	コサイド３０００ キノンドー水和剤４０ ヨネポン水和剤 バリダシン液剤５ （混）カセット水和剤 （混）カスミンボルドー （混）カッパーシン水和剤
4 軟腐病 *Pectobacterium carotovorum*	1.連作を避ける。 2.窒素質肥料の過剰施肥を避け、適正施肥をする。 3.排水を良好にする。 4.発病株は早期に処分する。 5.播種後から30日間の防虫ネット被覆が有効である。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.スターナ水和剤は黒斑細菌病にも登録がある。 2.フジドーＬフロアブルは花蕾形成期以降の散布で花蕾に薬害を生じるおそれがあるので、花蕾形成期までに散布する。	本葉９～10枚のころから２回	31 M1 31･M1 －(生)	スターナ水和剤 フジドーＬフロアブル （混）ナレート水和剤 （生）マスタピース水和剤
5 花蕾腐敗病 *Pseudomonas fluorescens* *P.viridiflava* *P.brassicae* *P.marginalis* *P.cannabina* *P.cichorii* *Pectobacterium carotovorum*	1.排水を良好にする。 2.窒素質肥料の過剰施肥を避け、適正施肥をする。 3.発病株は早期に処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.銅水和剤（Ｚボルドー、コサイド3000）は出蕾後に散布すると花蕾に薬害が発生するおそれがある。	発蕾期まで	M1 M1 M1	Ｚボルドー コサイド３０００ クプロシール
		発病前～発病初期	41 －(生)	マイコシール （生）マスタピース水和剤
6 黒斑細菌病 *Pseudomonas cannabina* pv. *alisalensis*	1.連作を避ける。 2.排水を良好にする。 3.発病株は早期に処分する。	定植時	P2 －(生)	オリゼメート顆粒水和剤 （生）マスタピース水和剤

ブロッコリー

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
7 菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*	1.発病株は早期に発見し、菌核ができる前に抜き取って圃場外で処分する。 2.連作を避ける。 3.夏期に湛水可能な圃地は、高温時に20日間以上湛水すると、菌核が死滅するので有効である。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.カンタスは少量の水で溶解しにくいので、散布液調製の際は、水をかき混ぜながら本剤の所定量を徐々に加える。 2.本病害を対象にカンタスドライフロアブル、アフェットフロアブルで防除を実施しているところでは、黒すす病の発生が少ない。 3.ダコレート水和剤、ベジセイバーは出蕾前に使用する。	発病前から	1 7 7 7 7 11 11 11 12 1･M5 11･7 7･M5	トップジンM水和剤 カンタスドライフロアブル アフェットフロアブル パレード20フロアブル カナメフロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 スクレアフロアブル メジャーフロアブル セイビアーフロアブル20 (混)ダコレート水和剤 (混)シグナムWDG (混)ベジセイバー
8 黒すす病 *Alternaria brassicicola*	1.通風、排水を良好にする。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ナレート水和剤の出蕾後の散布で汚れを生じることがあるので注意する。	発病前～発病初期	7 7 7 11 11 11 11 19 27･11 11･7 31･M1	アフェットフロアブル パレード20フロアブル カナメフロアブル アミスター20フロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 メジャーフロアブル スクレアフロアブル ジオゼット水和剤 (混)ホライズンドライフロアブル (混)シグナムWDG (混)ナレート水和剤
9 根こぶ病 *Plasmodiophora brassicae*	1.苗床は無病な土を使用する。 2.前年発生したところでは連作を避け、アブラナ科以外の作物との3年以上の輪作をする。 3.石灰窒素を施用し、土壌の酸度を6以上に矯正する。 4.圃場の排水を良好にし、低湿地や排水不良地での作付けを避ける。 5.発病株は根部を含めて、完全に除去する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.播種前、定植前の土壌への処理は、石灰などとの併用でより高い効果が得られる。 2.本病を対象にフロンサイド粉剤（全面土壌混和）、ダコニール1000（土壌潅注）で防除を実施しているところでは、リゾクトニア属菌による立枯症の発生が少ない。	播種または定植前	29 36 36	フロンサイド粉剤 ネビリュウ ネビジン粉剤
		定植前	21 21 29	オラクル粉剤 オラクル顆粒水和剤 フロンサイドSC
		定植前日～当日	21	ランマンフロアブル
		定植時	M5	ダコニール1000
10 べと病 *Peronospora parasitica*	1.窒素質肥料の過用や肥料不足を起こさないよう、適正施用をする。 2.リン酸が少なく、カリの多い畑に発病が多い。 3.排水を良好にする。 4.発病株は早期に処分する。 5.収穫後の病茎葉は集めて土中に埋没する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.本病害を対象にアミスター20フロアブルで防除を実施しているところでは、黒すす病の発生が少ない。 2.ダコニール1000、ダコレート水和剤、フォリオゴールド、プロポーズ顆粒水和剤は出蕾前に使用する。	初発生期から	11 11 21 21 40 U17 M1 M5 1･M5 4･M5 11･4 11･7 21･49 40･M5 40･49	アミスター20フロアブル メジャーフロアブル ランマンフロアブル ライメイフロアブル レーバスフロアブル ピシロックフロアブル ヨネポン水和剤 ダコニール1000 (混)ダコレート水和剤 (混)フォリオゴールド (混)ユニフォーム粒剤 (混)シグナムWDG (混)ゾーベックエンテクタSE (混)プロポーズ顆粒水和剤 (混)オロンディスウルトラSC

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

ブロッコリー

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
11 モンシロチョウ （アオムシ）	1.育苗床では防虫ネット（4㎜目合以下）で被覆する。 2.幼虫は見つけしだい捕殺する。	播種覆土後 ～育苗期後半	28･4A	（混）ミネクトデュオ粒剤
		育苗期後半	4A	アクタラ粒剤5
			4A	ダントツ粒剤
		育苗期後半 ～定植当日	28	プリロッソ粒剤オメガ
			28	ベリマークSC
			28	ヨーバルフロアブル
			28･4A	（混）ジュリボフロアブル
			28･4A	（混）アベイル粒剤
		定植3日前 ～定植当日	4A･5	（混）ガードナーフロアブル
		定植前日 ～定植当日	4A	モスピラン粒剤
		育苗期後半 ～定植時	28	プレバソン粒剤
			28	プリロッソ粒剤オメガ
		定植時	4A	モスピラン粒剤
			4A	ダントツ粒剤
			28･4A	（混）ミネクトデュオ粒剤
		若齢幼虫期	3A	トレボン乳剤
			3A	トレボンEW
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	モスピランSL液剤
			4A	ダントツ水溶剤
			4E	フィールドマストフロアブル
			5	スピノエース顆粒水和剤
			5	ディアナSC
			6	アファーム乳剤
			11A	トアロー水和剤CT
			11A	トアローフロアブルCT
			11A	バシレックス水和剤
			11A	ゼンターリ顆粒水和剤
			11A	デルフィン顆粒水和剤
			11A	エスマルクDF
			11A	フローバックDF
			11A	エコマスターBT
			11A	チューンアップ顆粒水和剤
			11A	サブリナフロアブル
			11A	ジャックポット顆粒水和剤
			13	コテツフロアブル
			15	アタブロン乳剤
			15	カスケード乳剤
			22A	トルネードエースDF
			22A	ファイントリムDF
			21A	ハチハチ乳剤
			28	プレバソンフロアブル5
			28	ベネビアOD
			28	ヨーバルフロアブル
			30	グレーシア乳剤
			30	ブロフレアSC
			4E･28	(混)フェニックスマストフロアブル
			5･18	(混)ファルコンエースフロアブル
			23･28	(混)ヨーバルターボフロアブル
			28･4A	（混）ジュリボフロアブル
			3A･1B	（混）ハクサップ水和剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

ブロッコリー

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
12 ヨトウムシ	1.育苗床では防虫ネット（4㎜目合以下）で被覆する。 2.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.オルトラン粒剤、ジェイエース粒剤を使用すると、ハイマダラノメイガの発生が少なくなる。	定植時	1B	オルトラン粒剤
			1B	ジェイエース粒剤
		若齢幼虫期	6	アファーム乳剤
			5	ディアナSC
			11A	トアローWA剤CT
			11A	バシレックス水和剤
			11A	ゼンターリ顆粒水和剤
			11A	エスマルクDF
			11A	フローバックDF
			11A	エコマスターBT
			11A	チューンアップ顆粒水和剤
			11A	サブリナフロアブル
			13	コテツフロアブル
			15	カスケード乳剤
			18	ファルコンフロアブル
			22B	アクセルフロアブル
			28	ヨーバルフロアブル
			30	グレーシア乳剤
			30	ブロフレアSC
			23･28	(混)ヨーバルターボフロアブル
13 ハスモンヨトウ	1.育苗床では防虫ネット（4㎜目合以下）で被覆する。 2.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●発生初期（若齢幼虫期） 1.老齢幼虫には薬剤の効果が劣るので、圃場をよく見回り、若齢期に防除する。 2.薬剤感受性の低下が見られる地域があるので注意する。	育苗期後半～定植当日	28	ベリマークSC
			28	ヨーバルフロアブル
			28･4A	(混)ジュリボフロアブル
			28･4A	(混)アベイル粒剤
		発生初期（若齢幼虫期）	4E	フィールドマストフロアブル
			5	ディアナSC
			6	アニキ乳剤
			13	コテツフロアブル
			18	ファルコンフロアブル
			22A	ファイントリムDF
			22A	トルネードエースDF
			22B	アクセルフロアブル
			28	フェニックス顆粒水和剤
			28	プレバソンフロアブル5
			28	ベネビアOD
			28	ヨーバルフロアブル
			30	グレーシア乳剤
			30	ブロフレアSC
			UN	プレオフロアブル
			28･4A	(混)ジュリボフロアブル
			4E･28	(混)フェニックスマストフロアブル
			5･18	(混)ファルコンエースフロアブル
			23･28	(混)ヨーバルターボフロアブル
14 シロイチモジヨトウ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2.苗床では飛び込み軽減のため、防虫ネット（4㎜目合以下）で被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●発生初期（若齢幼虫期） 1.老齢幼虫には薬剤の効果が劣るので、圃場をよく見回り、若齢期に防除する。 2.薬剤感受性の低下が見られる地域があるので注意する。	発生初期（若齢幼虫期）	5	ディアナSC
			6	アニキ乳剤
			13	コテツフロアブル
			22A	トルネードエースDF
			28	ベネビアOD
			28	ヨーバルフロアブル
			30	ブロフレアSC
15 タマナギンウワバ	1.育苗床では防虫ネット（4㎜目合以下）で被覆する。 2.幼虫は見つけしだい捕殺する。	若齢幼虫期	5	ディアナSC
			15	アタブロン乳剤
			22A	トルネードエースDF
			28	ヨーバルフロアブル
			30	グレーシア乳剤
			30	ブロフレアSC
			23･28	(混)ヨーバルターボフロアブル
16 オオタバコガ	1.育苗床では防虫ネット（4㎜目合以下）で被覆する。 2.幼虫は見つけしだい捕殺する。	発生初期	5	ディアナSC
			6	アファーム乳剤
			28	プレバソンフロアブル5
			30	ブロフレアSC

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

ブロッコリー

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
17 コナガ	1.紫外線反射資材を用いると、成虫の飛来を軽減することができる。 2.育苗床では防虫ネット（２㎜目合以下）で被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●若齢幼虫期 1.本虫対象に防除を実施しているところでは、ハイマダラノメイガの発生が少ない。	播種時	4A 28･4A	アクタラ粒剤５ (混)ミネクトデュオ粒剤
		播種覆土後～育苗期後半	28･4A	(混)ミネクトデュオ粒剤
		育苗期後半	4A 4A	アクタラ粒剤５ ダントツ粒剤
		育苗期後半～定植当日	28 28 28	ベリマークＳＣ プリロッソ粒剤オメガ ヨーバルフロアブル
		育苗期後半～定植時	28	プリロッソ粒剤オメガ
		定植３日前～定植当日	4A･5	(混)ガードナーフロアブル
		定植前日～定植当日	4A	モスピラン粒剤
		定植時	4A 4A 4A 4A 28･4A	モスピラン粒剤 ダントツ粒剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 (混)ミネクトデュオ粒剤
		若齢幼虫期	4A 4A 4E 5 5 6 6 13 14 14 15 15 21A 22B 22A 22A 30 30 28 UN 4E･28 5･18 23･28	モスピランＳＬ液剤 モスピラン顆粒水溶剤 フィールドマストフロアブル スピノエース顆粒水和剤 ディアナＳＣ アファーム乳剤 アニキ乳剤 コテツフロアブル パダンＳＧ水溶剤 リーフガード顆粒水和剤 ノーモルト乳剤 アタブロン乳剤 ハチハチ乳剤 アクセルフロアブル トルネードエースＤＦ ファイントリムＤＦ グレーシア乳剤 ブロフレアＳＣ ヨーバルフロアブル プレオフロアブル (混)フェニックスマストフロアブル (混)ファルコンエースフロアブル (混)ヨーバルターボフロアブル

ブロッコリー

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
18 ハイマダラノメイガ（ダイコンシンクイムシ）	1.秋播栽培では早播きしない。 2.育苗床では防虫ネット（２㎜目合以下）で被覆する。	播種時	4A	ダントツ粒剤
		播種覆土後～育苗期後半	28･4A	（混）ミネクトデュオ粒剤
		播種時～定植前	2B	プリンス粒剤
		育苗期後半	4A	アクタラ粒剤５ ダントツ粒剤
		育苗期後半～定植当日	28 28 28･4A	ベリマークＳＣ ヨーバルフロアブル （混）ジュリボフロアブル
		育苗期後半～定植時	28	プレバソン粒剤
		定植３日前～定植当日	4A･5	（混）ガードナーフロアブル
		定植前日～定植当日	4A	モスピラン粒剤
		定植時	4A 28･4A	ダントツ粒剤 （混）ミネクトデュオ粒剤
		発生初期	4E 5 11A 28 28 28 30 30 23･28	フィールドマストフロアブル ディアナＳＣ （生）フローバックＤＦ フェニックス顆粒水和剤 プレバソンフロアブル５ ヨーバルフロアブル グレーシア乳剤 ブロフレアSC (混)ヨーバルターボフロアブル
19 ネキリムシ類	1.被害株周辺土中の幼虫が潜む穴を見つけ、捕殺する。 2.作付け前の圃場の除草処理を徹底する。	育苗期後半～定植当日	28	ヨーバルフロアブル
		定植時	1B 3A	オルトラン粒剤 フォース粒剤
		定植時～生育初期	1B	ネキリエースＫ
		生育初期	3A 22B	ガードベイトＡ アクセルベイト

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

ブロッコリー

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
20 アブラムシ類	1.紫外線反射資材を用いると、成虫の飛来を軽減することができる。 2.育苗床では防虫ネット（1㎜目合以下）で被覆する。	播種時	4A	ダントツ粒剤
		播種覆土後～育苗期後半	28･4A	(混)ミネクトデュオ粒剤
		育苗期後半	4A	ベストガード粒剤
			4A	ダントツ粒剤
		育苗期後半～定植当日	28	ベリマークSC
			28･4A	(混)ジュリボフロアブル
			28･4A	(混)アベイル粒剤
		定植3日前～定植当日	4A･5	(混)ガードナーフロアブル
		定植前日～定植当日	4A	モスピラン粒剤
		定植時	4A	モスピラン粒剤
			4A	ダントツ粒剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			28･4A	(混)ミネクトデュオ粒剤
		発生初期	3A	アディオン乳剤
			4A	アドマイヤーフロアブル
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	モスピランSL液剤
			4A	ベストガード水溶剤
			4A	アクタラ顆粒水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			4C	トランスフォームフロアブル
			9D	セフィーナDC
			9B	コルト顆粒水和剤
			21A	ハチハチ乳剤
			23	モベントフロアブル
			29	ウララDF
			23･28	(混)ヨーバルターボフロアブル
			28･4A	(混)ジュリボフロアブル
21 アザミウマ類	1.紫外線反射資材を用いると、成虫の飛来を軽減することができる。 2.育苗床では防虫ネット（1㎜目合以下）で被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ダントツ粒剤、ジュリボフロアブル、アベイル粒剤はネギアザミウマの登録である。	播種覆土後～育苗期後半	28･4A	(混)ミネクトデュオ粒剤
		育苗期後半	4A	ベストガード粒剤
			4A	ダントツ粒剤
		育苗期後半～定植当日	28	ベリマークSC
			28･4A	ジュリボフロアブル
			28･4A	(混)アベイル粒剤
		定植時	28･4A	(混)ミネクトデュオ粒剤
		発生初期	4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	ベストガード水溶剤
			5	ディアナSC
			15	カスケード乳剤
			23	モベントフロアブル
			28	ベネビアOD
			30	グレーシア乳剤
			34	ファインセーブフロアブル
			23･28	(混)ヨーバルターボフロアブル
22 コオロギ類		発生初期	22B	アクセルベイト